

12/10  
県民福井

## 原発再稼働

# 反対が賛成を上回る

## 福井2区 有権者に本紙調査

本紙が実施した衆院選終盤の有権者意識調査によると、全国最多の原発十四基が立地する福井2区で、争点の原発再稼働について、反対が賛成を上回ったことが分かった。一方、2区の調査を基にした選挙情勢では、小選挙区、比例代表とも自民が依然、優位を保っている。ただ、投票先を決めていない有権者は小選挙区で37.5%、比例代表で33.7%に上り、情勢が変わる可能性もある。

(衆院選取材班)

## 自民が優位保つ

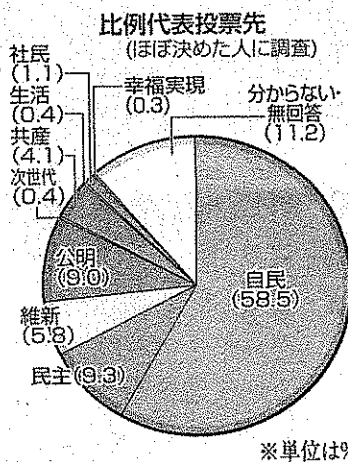
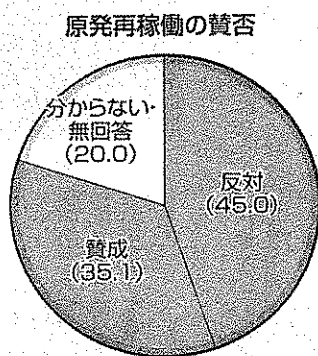
原発再稼働の賛否では、  
 反対が45.0%と賛成の35.1%を9.9ポイント上回った。分からない・無回答は20.0%だった。特定秘密保護法の賛否では、分からない・無回答が49.7%とほぼ半数を

占め、賛成が28.1%、反対が22.2%と続いた。  
 小選挙区では、高木毅氏(自)と自民前職(自)が追いつくが、辻一憲氏(自)と民主新人(自)にリードを保ち優勢。宇野邦弘氏(共)と共産新人

見物がある  
 衆院選  
 12月8日  
 自民は伸び悩み、苦しい戦いを強いられている。  
 高木氏は前回調査で六割程度だった公明支持層を九

割以上固め、民主支持層の切り崩しも一定の成果を取っている。幅広い世代の男女から支持を受け、強さを見せる。辻氏は知名度不足を補い、無党派層に大きく浸透し始めた。維新支持層をほぼ固めたが、足場の民主支持層にほころびを見せ

調査方法 福井2区の有権者を対象に12月8日、コンピュータで無作為につくった電話番号にかけるとランダム・デジタル・ダイヤリング(RDD) 追跡法で実施。対象者にかかった422件のうち、305人から有効回答を得た。回答率は72.3%。性別や年代構成を反映させて集計した。調査結果の文中の数値は小数点以下を四捨五入したため、合計が100%にならない場合もある。



る。宇野氏は支持が広がらず独自の戦いを展開している。比例代表では、投票先をほぼ決めた人のうち、投票先を自民とした人は58.5%で前回調査より1.2ポイント上回り、突出している。民主が9.3%と続くが、前回より10.0ポイント減った。